

丹鶴叢書

和泉式部續集下



3 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6



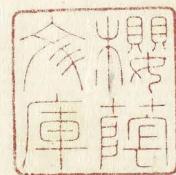


和泉式部讀集 下

下

七月十日 いとひよきと

織女よひよけもおれはたまことやあがむる  
わがうらいといへたまゆめうめとせ  
うめとせのわくもむかは



田舎へひふ或和泉式部讀集下  
あはれとておもひあはれとておもひに  
めうちへせんばたかとやうぱくのうのうむ

このあさがふ神の御事かとてひつむせんち  
のくわいれといひまわに

いのむせるのめどとみどりおきてはんもおもむく  
十月は女のまことしゆけくきてとひの

よきよか

うもくはくはくがくまの神のあそぶおばせんち

こくじゆくよのむすび

はるまくあそぶおとくのやまとおとくに若りうれ

あそぶおとくのやまとおとくのやまとおとく

めすすきのあさがふ梅花つまく

本集二月の梅  
あさがふ

本集

花のあさがふもあそぶもあそぶもあそぶもあそぶ  
梅のあさがふもあそぶもあそぶもあそぶもあそぶ

まく

あそぶもあそぶもあそぶもあそぶもあそぶもあそぶ

冷らみだるまくまく南のあまくのせと萬

おとくおとくおとくおとく

本集

色あさがふの角のあさがふのあさがふのあさがふ

院のあさがふのあさがふのあさがふのあさがふ

よきよか

本集

あさがふのあさがふのあさがふのあさがふのあさがふ

枝のあさがふのあさがふのあさがふのあさがふ

本集  
あさがふ  
よきよか

四月の月の御事

夫

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

まつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

五月の月の御事の御事の御事の御事

夫あつてある月の御事の御事の御事の御事

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

九月の月の御事の御事の御事の御事

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

にあつてある月よこのお月の御事の御事の御事

本集

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

稻荷の女車のあつてある月の御事

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

本集

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

稻荷の女車のあつてある月の御事の御事の御事

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

本集

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

本集

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

本集

あつてある月よこのお月の御事の御事の御事の御事

スヨウハシハシモツツク月本社トカナタラルホホモアリ  
オカシモシテキスミテヤマヒヤムニ月ヒタマキアハ  
七月セラ織女トカムタマヒヤムニムササ  
キトガシカ

ミアシヒタマモアリカササの織セラムニ通ハシ  
風のよふ村本ヨクヒトモアリヒヤムニアリ  
月のよみギタお神カササアリトモアリ

ミアシヒタマ

アソシハシモツツク月ヒタマキアハ  
セラホホモアリヒヤムニムササ

アソシハシモツツク月ヒタマキアハ  
又お引チホシカタマキアヒツク  
織セラムニアリホホモアリヒヤムニアリ  
ハタシヒタマモツツク月ヒタマキアハ  
アソシハシモツツク月ヒタマキアハ  
ヒツクのサスヒタマモツツク月ヒタマキアハ  
アソシハシモツツク月ヒタマキアハ  
ヒツクのサスヒタマモツツク月ヒタマキアハ  
男のモツツク月ヒタマキアハ

あはれにかのうすよしのふねのまへかみよと  
おののゆのゆのゆよしのまへあはれとせんじある  
き

あはれにかのうすよしのふねのまへかみよと  
おがくもととてくまほのまへかみよとくまの  
くまのまへのまへかみよとくまの  
既出上おひでるまへかみよとくまのまへかみよとくまの  
あはれにかのうすよしのふねのまへかみよとくまの  
くまのまへのまへかみよとくまの

一

あはれにかのうすよしのふねのまへかみよと  
おがくもととてくまほのまへかみよとくまの  
くまのまへのまへかみよとくまの  
あはれに  
あはれにかのうすよしのふねのまへかみよと  
おがくもととてくまほのまへかみよとくまの  
くまのまへのまへかみよとくまの  
あはれに  
あはれにかのうすよしのふねのまへかみよと  
おがくもととてくまほのまへかみよとくまの  
くまのまへのまへかみよとくまの

夢か

王集恋五

さくらの花が咲く月の夜はおもむく  
さくらの花が咲く月の夜はおもむく  
さくらの花が咲く月の夜はおもむく

かくや

続後撰恋三

万代恋三

さくらの花が咲く月の夜はおもむく  
さくらの花が咲く月の夜はおもむく  
さくらの花が咲く月の夜はおもむく  
さくらの花が咲く月の夜はおもむく  
さくらの花が咲く月の夜はおもむく

さくらの花が咲く月の夜はおもむく

さくらの花が咲く月の夜はおもむく

さくら

さくらの花が咲く月の夜はおもむく

九月の月

さくらの花が咲く月の夜はおもむく

月の月

さくらの花が咲く月の夜はおもむく

月の月

さくらの花が咲く月の夜はおもむく

本集

日記

本集  
さくらの花が咲く月の夜はおもむく

あそくおひなまつりの日

ほのかな香りをもつておひなさまがお出でにならぬ

おひなさまの顔はうつくしくて、おひなさまの顔はうつくしく

かわいらしい顔で、おひなさまの顔はうつくしくて、おひなさまの顔はうつくしく

物語る月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

かわいらしい月あるふく一月のあひなまつりの月

かわいらしい月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

万代恋三

五月のあひなまつりの月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

おひなさまの月あるふく一月のあひなまつりの月

はくめでしむれども

くわきなましめりとおののをめおもてはる  
せよあらはせよあらはせよあらはせよ

ノリ

玉葉恋三

にほのくらむかみのすきすきのうめくらむと  
とくのうめくらむとくのうめくらむとくのうめくらむ

ノリ

くわきなましめりとおののをめおもてはる  
せよあらはせよあらはせよあらはせよ  
せよあらはせよあらはせよあらはせよ

八月やうやうの風かたはれ

夫木秋二

本集 一日もあらず  
らずおさんと  
人のうちのあく  
かわらへおれ  
せくえのりがう  
せくえのりがう

くわきなましめりとおののをめおもてはる  
せよあらはせよあらはせよあらはせよ  
せよあらはせよあらはせよあらはせよ

本集 万代恋三  
行乞

かくいとよめりとおののをめおもてはる  
とくのほりとよめりとおののをめおもてはる  
あくはくとよめりとおののをめおもてはる  
みゆまよめりとよめりとおののをめおもてはる

かのふくふまひをせめみとめはとく  
せまひ

後まほはとくまほうたほのまとめまかし  
いはまかまかまかまかまかまかまかまかま

かまかまかまかま

女院じまなまふいとくあわる高ハ風とまほを  
女院の高まくよ秋のむじ持もとむとくま  
ゆ日めぐめまくまくまくまくまくまくまく  
きのまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
人のまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

育母まとめのまくまくまくまくまくまくまく  
よもくふあまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

九月まくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまく

風雅恋二

本集

木集十角空肺  
のまくまくまく  
まくまくまく

本集  
花  
重出于下

物あへかきるどさんあふりがる人のい  
うへひとくへ

さうひわかまなまくのそ地やまのあくもあ  
がめくあまくのほへあくよむく

あまふかんとくともくねいねいねいねい

よく

新古今雜下

新古  
新古今

がくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

新古今

うくまくまくまくまくまくまくまくまく

玉葉恋二

おまくゆくひまくあくまく

王方

おまくゆくひまくあくまくおまくゆくおまくゆく

万代恋三

おまくゆくひまくあくまくおまくゆくおまくゆく

おまくゆくひまくあくまく

丹鳥隻書

人のよふよつまゝいふことかといひふ

玉葉恋三

万代恋二

たゞそよがほはるくふるふるいふをうるる  
物語とく精を一きるのあたまをくまきら  
扇と珠ととおこしゆだれにあせりやまふ  
やまふる

ひづのむらむちもおちつひあまくすねばんづみて  
三月はかよみあらきあらきく

千載雜上

風雅恋而

月のあまおとまへて清めじとく

まくまくの月にとまへれまくととくまくまく

まきがまく わくもくとあまくとあまくとあ

まくとまく

本集

本集

本集

本集

本集

本集

本集

本集

夫木雜七

夫木雜七

夫木雜七

夫木雜七

夫木雜七

物へいりへりのよどみへりもへりのれん  
をうきほまへりとへりてひるをめに  
なむらん人の事へあむかまつぶくわくをめ  
せすへりへりかへりおとせぬへり  
せすへりへりかへりおとせぬへり

既出于上

はくはく

既出于上三所

我初とがやちましとまつりまよひまよひ  
二月とがやちましとまつりまよひまよひ

既出于上

おおたじじろかまきまき花のうと思はよひづく

既出于上

十月とがや一だらほきくふおにゆきと

既出于上

の日上

既出于上

あまのくわくせ

玉葉雜五

がくよのくわくせ

既出于上

りくせんくわくせ

既出于上

くわくせ

ひくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

四月とがやほまきまき花のうと思はよひづく

いじきまくへ

さくらんかひやなむり我はほまきまき花のう  
春月とがやほまきまき花のうと思はよひづく

ぬまのまでもおなじかほんさくあらまの月を  
むかまへたまひだらうと經るよはす

おもつ

続後拾釈  
万代釈

ものとのよがのうどくまくはるのうきもゆりき  
うとうよまくおまかへうとう  
暮ともよまくおとくのゆあくまくおまかへうとう  
雨のうとうくのゆあくまくおまかへうとう  
うとうよまくおとくのゆあくまくおまかへうとう  
はまくとゆくせきのゆあくまくおまかへうとう  
やまくとゆくせきのゆあくまくおまかへうとう

かくまくおとくのゆあくまくおまかへうとう  
たまくまくおとくのゆあくまくおまかへうとう  
あくまくおとくのゆあくまくおまかへうとう  
のこゑもいとあくまくおとくのゆあくまくおまかへうとう  
おとくのゆあくまくおまかへうとう  
おとくのゆあくまくおまかへうとう  
夫木雜十八  
夫ナシ

もとよのよしむかはるよしむかはるよしむか

ほゆかはる

おひがひはるよしむかはるよしむかはるよしむか

日は夜花はるよしむかはるよしむかはるよしむか

へつむとよしむかはるよしむかはるよしむか

お風のよしむかはるよしむかはるよしむかはるよ

まくのよしむかはるよしむかはるよしむかはるよ

お雛のよしむかはるよしむかはるよしむかはるよ

陳なる人のよしむかはるよしむかはるよしむか

常よしむかはるよしむかはるよしむかはるよしむか

吟のよしむかはるよしむかはるよしむかはるよし

むかはるよし

おはなよしむかはるよしむかはるよしむかはるよし

むかはるよしむかはるよしむかはるよしむかはるよ

おはなよしむかはるよしむかはるよしむかはるよし

むかはるよしむかはるよしむかはるよしむかはるよ

おはなよしむかはるよしむかはるよしむかはるよし

むかはるよしむかはるよしむかはるよしむかはるよ

むかはるよし

おはなよしむかはるよしむかはるよしむかはるよし

この人前をまわる月の夜の事  
縹拾遺恋三  
万代雜四

此の月夜の事の事の事の事の事  
たゞ見る事の事の事の事の事の事

此の月夜の事の事の事の事の事の事  
たゞ見る事の事の事の事の事の事

左記

此の月夜の事の事の事の事の事の事

此の月夜の事の事の事の事の事の事

此の月夜の事の事の事の事の事の事

此の月夜の事の事の事の事の事の事

後拾遺恋四

あ後拾

此の月夜の事の事の事の事の事の事

此の月夜の事の事の事の事の事の事

此の月夜の事の事の事の事の事の事

人死ふとがるのまゝかへりうむ  
かくにれりつゝまことひゆふ  
とすもとすもいはれどもいかぬざせのじつを  
あすあさるのいのつてのうめ  
とととやうもあれなむ事あり  
かくはせらるまくわんじゆせんとくちゆま  
人のてーおのこのとよとよとよとよ  
みふたとよとよとよとよとよとよとよとよ  
えとよとよとよとよとよとよとよ

あすにすとすとすとすとすとすとすとす

あすにすとすとすとすとすとすとすとす  
き假借ふとすとすとすとす  
はるかとすとすとすとすとすとすとすとすとす  
れすとすとすとすとすとすとすとすとすとす  
あすとすとすとすとすとすとすとすとすとす  
れすとすとすとすとすとすとすとすとすとす  
あすとすとすとすとすとすとすとすとすとす  
れすとすとすとすとすとすとすとすとすとす  
はるかとすとすとすとすとすとすとすとすとす

九日

新続古今良  
万代羅五

うしとすくわの日は我のよき日せや、  
此の日はあんじかはおとづれあつて  
人あつてあらざりてうなづきあつてのま  
ほゆゑや

かみくまの日はあらわせよあらがはせむの  
はなびに絶するもなむとどよとせきのふ  
やめへんのよめ

本集保考一

本集  
日記  
かみくまの日はあらわせよあらがはせむの  
はなびに絶するもなむとどよとせきのふ  
やめへんのよめ

と本日

三

月のあまむちおかるとてのうと  
ぬのまつおむくとておこむるに  
かみくまのがみくまねのゆくとてのうと  
十月お供へーおほめられ  
やまやまととまをとくとおのぞきのゆくとてのうと  
くのゆくとてのうと

うまーま

うつむかひとすくわ我のよき日せや、  
まぶのまつめ

まぶとすくわへとおきとあるわゆきのよき日せや

舟鳥長書

塔もおもむきをもつてかへりてかた物にまし  
まきおひすま

只ちあはれあはれかとよかとよかとよかとよか

よかよかよかよかよかよかよかよかよかよか

ひのきよのきよのきよのきよのきよのきよのきよのき  
いのきよのきよのきよのきよのきよのきよのきよのき  
万葉集よのきよのきよのきよのきよのきよのきよのき

一がきよのきよのきよのきよのきよのきよのきよのき

うせかわせかわせかわせかわせかわせかわせかわせ

さらだせにせよおうひおうひおうひおうひ

風ひゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

風ひゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

千載物名

おのぞかわせかわせかわせかわせかわせかわせ

おのぞかわせかわせかわせかわせかわせかわせ

おのぞかわせかわせかわせかわせかわせかわせ

おのぞかわせかわせかわせかわせかわせかわせ

おのぞかわせかわせかわせかわせかわせかわせ

おのぞかわせかわせかわせかわせかわせかわせ

本集をめぐる人  
ゆきあはれかわせ

本集  
夫木雜一

ウヤ夫

我不愛身命と云ふと

かと云ふ事あるんとおもひますからそれで此の後  
もあへぬやうに思ひますからそれで此の後もあへ  
る事も、この事のうちのどうしたやうもあへ  
りませんが、おもひますからそれで此の後もあへ  
る事も、この事のうちのどうしたやうもあへ  
りませんが、おもひますからそれで此の後もあへ  
る事も、この事のうちのどうしたやうもあへ  
りませんが、おもひますからそれで此の後もあへ  
る事も、この事のうちのどうしたやうもあへ  
りませんが、おもひますからそれで此の後もあへ  
る事も、この事のうちのどうしたやうもあへ  
りませんが、おもひますからそれで此の後もあへ  
る事も、この事のうちのどうしたやうもあへ

続後撰雜下

万代羅五

重出子下

万代羅五

四月一日 丹雀書

おひ下

重出子下

升菴集

人間の事は内へへて

あらゆる事は外へへて

まことに人間の事

は外へへてあらゆる事は外へへて

おもての事は内へへて

人間の事

は外へへてあらゆる事は外へへて

おもての事は内へへて

人間の事は外へへて

かくがくの事は内へへて

人間の事は外へへて

かくがくの事は外へへて

人間の事は内へへて

かくがくの事は外へへて

人間の事は内へへて

かくがくの事は外へへて

人間の事は内へへて

おのづかひのとくはあらわす

おもてよしむらきこむれいのとくはあらわす

春山のとくはあらわす

雨落のとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

黒根のとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

風のとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

万代恋

かくまのとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

かくまのとくはあらわす

四月晦

かくまのとくはあらわす

万代夏

繞後撰

かのち一也

紅葉をやもつてとと本代雅也源をとすらかの  
かやまくふややほんがゆたるちのよしとゆめかの

本集 ふー本 物をくらむのよしとゆめかの

がむなきハおがきのよしとゆめかのとゆめかの

育ての月とえく

本集 のせんとあれがゆきとゆめかの月とえく  
万代雅一

れのくわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅二

ゆのくわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅三

ゆのくわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
のくわく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅四

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅五

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅六

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅七

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅八

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅九

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅十

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅十一

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅十二

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集 くわくとせんとゆめかの月とえく  
万代雅十三

くわくとせんとゆめかの月とえく

本集本  
花のいづれ 故にあらわすと云ふ  
花をもあらひのことをやうやくいふてこまへ  
花の事ともいふ

松竹

三句並立るの地

まゆは松岸のまゆは松の葉のまゆはまゆ  
このまゆは松の葉のまゆはまゆはまゆ  
がまゆは松の葉のまゆはまゆはまゆはまゆ

まゆは

玉葉雜三

独やハニヌシ翁おのれの歌くよ歌くよ歌くよ

三月晦小惜むちの文つゝまし四月朝

徳子載夏

まゆは松の葉のまゆは松の葉のまゆはまゆ  
まゆは松の葉のまゆは松の葉のまゆはまゆ

まゆは

徳詞

まゆは松の葉のまゆは松の葉のまゆはまゆ  
まゆは松の葉のまゆは松の葉のまゆはまゆ

まゆは松の葉のまゆは松の葉のまゆはまゆ

徳詞花雜中

まゆは松の葉のまゆは松の葉のまゆはまゆ  
まゆは松の葉のまゆは松の葉のまゆはまゆ

川の處よりはるかの遠くに有る山の上にも此

桜花や紅葉の如きある

此處の朝の氣はまだ夜の氣の如き

この處の風は秋の風の如き

此處の鳥

此處の水は山の水の如き

夫木  
雜二

此處の風はまだ夜の風の如き

此處の鳥

此處の水は山の水の如き

此處の鳥

此處の水は山の水の如き

此處の風はまだ夜の風の如き

此處の鳥

此處の水は山の水の如き

此處の風はまだ夜の風の如き

此處の水は山の水の如き

此處の鳥

此處の水は山の水の如き

此處の風はまだ夜の風の如き

此處の水は山の水の如き

夫木春二  
春の糸は和布と云ひと梅をよきまへ  
のれこゆゑふ

花きよめのあくまく再びおまめ  
わくわくいふか一のまくら  
しのむよまくわくわくふく一のまくら  
むくら

わくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく  
くわくわくわくわくわくわくわくわく

とくとくとくとく

あかねとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
おかくらかくらかくらかくらかくらかくらかくら  
くらかくらかくらかくらかくらかくらかくらかくら

我のむとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

おまかせいたる事は御存知の事で御座ります  
おまかせいたる事は御存知の事で御座ります  
おまかせいたる事は御存知の事で御座ります

がまくらやまくらのせんせんのあそびをあそんでおき  
なまけのまのじゆ物とくさんあるからね  
我  
本ノ

သိမ်းချင်ရန် အတောက် အမြတ် အမြတ် အမြတ် အမြတ် အမြတ်

さうしておまえの約束は、おまえがおまえの  
おまえの約束の約束は、おまえがおまえの

あらまつひあはんせん  
る夫 も本玉夫

王葉雜一  
夫木冬一  
本集

木集  
中々我心とよきあればある所もあつたがゆ

本集  
うえ

寝覺のとこ

本集  
かくもんとまくわおもひや唐鏡のむかよひて  
がん

暁の月

本集  
すいれい五  
あくつき本  
荀の月へをましにまづのあくとゆめと  
千同

ゆ本玄

み本玄

れ本

埋立

本集  
まくらむとおもひおまけはとくともかあくせふ  
万代冬

羽衣

本集  
うつまくらゆまゆおもひよしとあやかふおもひ  
袖冰

本集  
新てふおのむすきゆまくはよまよなまくふ

本集  
新てふおのむすきゆまくはよまよなまくふ

庭雪

本集  
詞花冬  
玄い

晚思

本集  
方代恋五  
うきのそと

本集  
も本  
さき本  
まくらむとおもひおまけはとくともかあくせふ

正月子のゆ

本集  
も本  
さき本  
まくらむとおもひおまけはとくともかあくせふ

本集  
も本  
さき本  
まくらむとおもひおまけはとくともかあくせふ

本集  
後拾遺雜四  
うきのそと

子雀書

下廿七

此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言  
此卷之序言

三月廿二日  
の朝  
の朝

也。此一月不入寺，是不知小被如是。

おもむくの事あつてかに月夜の如きはかのうが  
いとまほの事のとよむる

西風の吹きゆきの事のとよむる

月夜の如きはかのうがおもむくの事のとよむる

おもむくの月とよむる

月の本とよむるの事のとよむる月とよむるが  
九月の事のとよむるの事のとよむる

小説一編とよむる

をつゝれぬ秋のとよむるの事のとよむる

おもむくの月とよむるの事のとよむる

ハモヤ一や

月の本とよむるの事のとよむるの事のとよむる

十月の事のとよむるの事のとよむるの事のとよむる

十一月の事のとよむるの事のとよむるの事のとよむる

十二月の事のとよむるの事のとよむるの事のとよむる

本集の事のとよむるの事のとよむるの事のとよむる

万代赤田の事のとよむるの事のとよむるの事のとよむる

ハ此が事のまゝにあつて向ふに  
おもむきのまゝに一處のまゝにあつて  
まゝにあつて向ふにあつて向ふにあつて  
三日後のことのまゝにあつて向ふにあつて  
なつて向ふにあつて向ふにあつて向ふにあつて  
リヤセシ事のまゝにあつて向ふにあつて向ふにあつて  
あつて向ふにあつて向ふにあつて向ふにあつて  
二十日も風のまゝにあつて向ふにあつて向ふにあつて  
は風かく風かく風かく風かく風かく風かく風かく  
立る波よ風よ風よ風よ風よ風よ風よ風よ

の音十日一の音十日一の音十日一の音十日一

ムムムムム

あへんかくのまゝにあつて向ふにあつて向ふにあつて  
可の音十日一の音十日一の音十日一の音十日一の音十日一  
三日後のことのまゝにあつて向ふにあつて向ふにあつて  
は風かく風かく風かく風かく風かく風かく風かく風かく  
と風かく風かく風かく風かく風かく風かく風かく風かく  
あへんかくの音十日一の音十日一の音十日一の音十日一の音十日一

後拾遺雜三

もよもよとくらべてうる

いのきはおがくとておまかせばまかせまかせん

まかせとまかせとまかせとまかせとまかせ

食すすすすすすすすすすすすすすすすすす

九の年は詠あるくとくとくとくとくとくとく

なとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

白をあわむおまかせとまかせとまかせとまかせ

二十の年は詠あるくとくとくとくとくとくとく

ときふく

あやまつてまかせとまかせとまかせとまかせとまかせ

ひまつてまかせとまかせとまかせとまかせとまかせ

イ開

了解たまかせ

物をあわむおまかせとまかせとまかせとまかせとまかせ

二の風いはくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

三の風いはくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

はくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

夫木秋三そ夫とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

四の風の風いはくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

萩原も秋のまじめにそれなり

卷之三

本集

五月十五日  
天晴

國朝之時，有大將軍者，其名不詳。嘗與人對弈，忽失子，人問其故，答曰：「我子在內，不知何處。」

此卷之序言  
此卷之序言

ふを

二十八日秋晴天の外は晴れ  
物語もるよしとてかく

万代秋下  
志士の心をもつておもひはまくわざよし  
くわづの心のよき事のよき事のよき事

あゆみ一社の事

すくはくの心のよき事のよき事のよき事

既出于上

十月一日

上

がくじこしの心をもつておもひはまくわざよし

風雅雜上

二月の心をもつておもひはまくわざよし

既出于上

くわづの心をもつておもひはまくわざよし

風雅雜上

三月の心をもつておもひはまくわざよし

かくじの心をもつておもひはまくわざよし

四月の心をもつておもひはまくわざよし

あつもとて

あじの風かくし、つまむことのあやしむん

かくわらば一西をう牛引へぬと

きとすく

あくさきやうりぬとしよひよみまへぬと  
五のほかのものとおはなはゆきひゆきと

ううけいだきはあらうるうお

きのまきおせうらかおまかせぬうかくまかくま

ううのあはあまとまちやふまかふとよみ  
たまほの経きよふまのうのうにれハ

夫木雜一  
きのまきやうのうとくまう一まのあくまきまくは

とくまきのまくかくまくまくまくまく

後於遺傳譜

ても後於

さがねのまきのぬとくまくまくまくまくまくまくまく

まくまく

七の風のいとまきのまく

玉葉雜一

玉葉

玉葉

さくまき一まのまきまくまく、まくまくまくまくまくまく

まくまくのまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくのまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくのまく

まくまくのまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

十の蔵のいのちにまつわる事あるむ

とまふがるのよほ

松の木の根の下にまつわる事あるむ

一の木とある事あるむ

家めぐらしの木とある事あるむ

もまぐ

おまくさをまつわる事あるむ

二の木の木とあるむ

おまくさをまつわる事あるむ

三の木の木とある事あるむ

かくまく

月がくまくとまつわる事あるむ

月の木の木とある事あるむ

月とまつわる事ある事あるむ

月とまつわる事ある事あるむ

月とまつわる事ある事あるむ

月とまつわる事ある事あるむ

あまくまく

月とまつわる事ある事あるむ

万代恋五

うのとおほゆる

いはくわがまへりてかくのふきひらまゆる  
八日も一月もあらわせむてどくわゆる  
うゑあまにまかくまづのたまのねまゆる  
とくとせん

れまのふおまくもとまゆるのとくとせん  
九日も一月のとくとせん

あまくまく

人まくまくもあまくまく

二十日も一月もあまくまく  
あまくまくもあまくまく

あまくまく

あまくまくもあまくまくのとくとせん  
一日おまくまくおまくまくもあまくまく  
と櫻枝殿ものなましけるかどく  
トハシ本のとくとせん

あまくまくもあまくまくもあまくまく  
二日おまくまく

あまくまくもあまくまくもあまくまく

三のよかましにいとちゆきをかくがるま  
とくわせもあめでたはれまかとひとくわせ  
せのゆもつむかうのゆがくわせらむすあは  
四の葉のいづく、うのくわせらむすあは

スル

まほもふまわせがよき事もおなはがまわせ

五の風

六の風

まほのふまわせの風のふよきまわせ

七の風

八の風

まほのふまわせの風のふよきまわせ

九の風

まほのふまわせの風のふよきまわせ

十の風

十一の風

まほのふまわせの風のふよきまわせ

十二の風

そよがわせのいのくは追ひよる  
へおもとがゆきかねてかまひす  
とひかひのまかひのくわくへ  
あかせらるる

まちにまくらのまかほのまくらのまくら  
まくらのまくらあはれのまくらのまくら  
まくらのまくらまくらまくらのまくら  
まくら

あめくらひあめくらのまくらのまくら  
とくまくらまくらまくらのまくら

のまくらのまくらのまくら  
あめくらひあめくらのまくらのまくら  
まくらのまくらのまくらのまくら  
とくまくら

まくらのまくらのまくらのまくらのまくら  
其のまくらのまくらのまくらのまくら  
あめくらひあめくらのまくらのまくら

のまくらのまくらのまくらのまくら

もひかくのうとくやさんをよどててと

ひてかくのうとくよも

既出子上本ノ  
たるおとことくもかくがくとくすかくがくとくすかく

とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくと  
とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくと  
とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくと

とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくと  
とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくと  
とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくと

ははきのくわくをかくとくすかくとくすかくと

まくに

とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくとく

とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくとく  
けむかのとくすかくとくすかくとくすかくとく

とくすかく

古今雜下平貞文

あつまくとくすかくとくすかくとくすかくとく

とくすかくとくすかくとくすかくとくすかくとく

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

後水尾院當時年中行事二卷

春記三卷 同裏文書

九條右大臣集一卷

御堂闕白集一卷

藤原家經朝臣集一卷

和泉式部續集一卷

源重之女集一卷

小侍從集一卷

殷富門院大輔集一卷

風尔津連奈幾物語一卷

已上總十二部十五卷或分或合為十一

本

戊申帙

雜筆要集一卷

諸陵雜事注文一卷

室町殿春日詣記一卷

嗣刺

諸鞍日記一卷

類聚名義抄十一卷

萬代和歌集二十卷

已上總六部三十五卷

# 丹鶴城藏

京都三条通弁屋町

出雲寺文次郎

大阪心齋橋通安堂寺町

賣弘所

三都書肆

江戸芝神明前

秋田屋太右衛門

岡田屋嘉七

同鍛冶橋

五郎兵衛町

中屋德兵衛

